

# 平成27年度 経済環境常任委員会管外視察の概要

■視察日時 平成27年11月4日（水）～6日（金） 2泊3日

■視察者 経済環境常任委員（7名）  
田代国広（委員長）、氷室雄一郎（副委員長）、西岡勝成、  
鎌田 聡、坂田孝志、松村秀逸、中村亮彦

■視察先 ①おかやま次世代自動車技術研究開発センター（岡山県岡山市）  
②国宝松江城（島根県松江市）  
③江津バイオマス発電所（島根県江津市）  
④明治日本の産業革命遺産・萩エリア（山口県萩市）

■視察趣旨 下記により、今後の委員会審議の参考とするため視察を実施した。

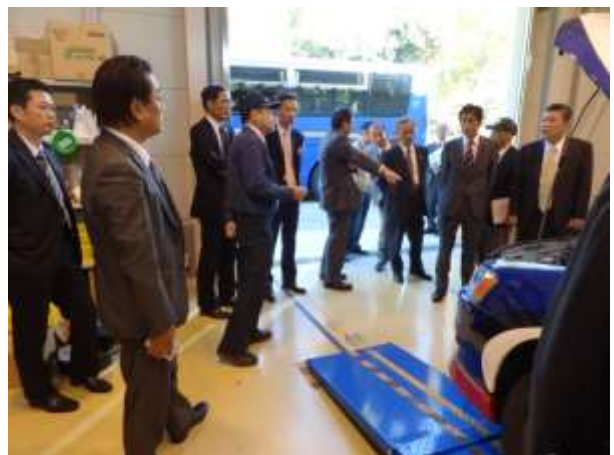
- ① 三菱自動車の国内最大製造拠点を擁し関連企業が多数立地する岡山県は、次世代自動車分野を県の重点育成産業に位置付け、県内企業の国際競争力のある新技術・新製品の創出、人材育成、技術力強化等の取り組みを支援しており、その拠点を訪ねて意見交換等を行い本県の産業育成施策の参考とする。
- ② 本年7月に国宝指定された松江城を活用した松江市の観光振興施策を視察し、本県の観光振興施策の参考とする。
- ③ 再生可能エネルギーの普及、木質バイオマスの利活用に取り組む江津市を訪ね、本年7月に稼働したばかりのバイオマス発電所の稼働状況確認と意見交換等を行い、本県の新エネルギー普及及び環境保全等の施策の参考とする。
- ④ 本年7月に世界遺産に登録された明治日本の産業革命遺産・萩エリアを活用した観光振興に取り組む萩市を訪ねて世界遺産の現況調査と意見交換等を行い、本県の観光振興施策の参考とする。

## ■視察の概要

### ①おかやま次世代自動車技術研究開発センター

平成23年に開設され、一般公募の県内企業16社と岡山県、県工業技術センター、県産業振興財団が共同して次世代電気自動車に対応した新素材、新工法、新技術、新製品等の研究開発に取り組んでいる。2期目の現在は、1期目で開発したインホイールモーターの小型化や新サスペンション開発等、実用化を目指した取り組みが進められている。

コスト削減の見通しや充電施設整備の状況、燃料電池自動車への応用、人材育成の成果等について、製造コストは普及に伴い下がること、充電施設は30キロ圏構想として進めていること、開発中の技術・製品は燃料電池車にも使えること、人材育成面では参加企業のネットワーク化や県内企業技術のブランド力向上等で成果が出ていること等を確認した。



## ② 国宝松江城

国宝化を契機に首都圏、関西圏、名古屋など大都市圏で大々的に電車内の広告掲示や観光キャラバン等のプロモーション活動を展開するとともに、県及び観光連盟と連携し旅行者向けの説明会等も実施。インバウンド対策では、中国圏域への来訪が多い欧米人に絞り広島県等とも連携しながら情報発信を強化。

松江市は戦火を免れた街並みに江戸時代の風情が残っており、松江城と共に重要な観光資源として活用されていた。



## ③ 江津バイオマス発電所

江津市の再生可能エネルギーに対する取り組み状況と、合同会社しまね森林発電による発電事業の概要についてそれぞれ説明を受けた後、発電所施設を見学。

発電所では、国の固定価格買取制度を活用し、地域の未利用木材である間伐材等の林地残材に、熱量の高いパームヤシ殻（輸入材）を加えて火力を補い、効率的な発電が行われていた。

竹材や公共用地の剪定くず等の使用、発電所への長期にわたる燃料チップの供給体制等について、竹材は設計上想定していなことが、剪定くず等の産業廃棄物は受け入れていないことが、チップの安定供給は地元事業者と発電所の間で20年間の安定供給契約を締結しており、江津市も森林資源活用の観点から支援していること等を確認した。



## ④ 明治日本の産業革命遺産・萩エリア

世界遺産の登録により増加する国内外からの観光客の利便性向上のため、定期観光バスやシャトルバスの運行、各施設の駐車場整備、ガイドマップ（日本語・英語）の作成、拠点施設への無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備等が行われていた。

今後、観光協会ホームページの英訳化、観光ボランティアガイド養成及び世界遺産ビジターセンターの整備のほか、ICT技術を積極的に活用し、タブレット端末を利用した遠隔通訳システムの試験導入、世界遺産における観光客のスマートフォン等向けのバーチャルリアリティー映像の整備等が予定されていた。



スマートフォン等向けのバーチャルリアリティー映像の整備等が予定されていた。